

第7章 長寿命化計画の継続的運用方針

第7章では、PDCA サイクル（メンテナンスサイクル）を確立し、長寿命化計画を継続的に運用していくため、「情報基盤の整備と活用」「計画策定後の推進体制等」「フォローアップ」について基本的な考え方を整理しています。

7.1 情報基盤の整備と活用

老朽化状況の継続的な把握と点検結果の一元管理の仕組みの整備

従来の事後保全を基本とした施設管理から長寿命化を目指した予防保全型の施設管理に転換していくためには、教育施設の老朽化状況を継続的に把握することが重要です。

そのため、平成 29(2017)から平成 30(2018)年度にかけて実施した教育施設の劣化状況調査の結果を基本に、今後定期的に変更していく自主点検等の結果や整備記録等を蓄積し、各教育施設の基礎情報と合わせて一元管理していく仕組みを整備します。

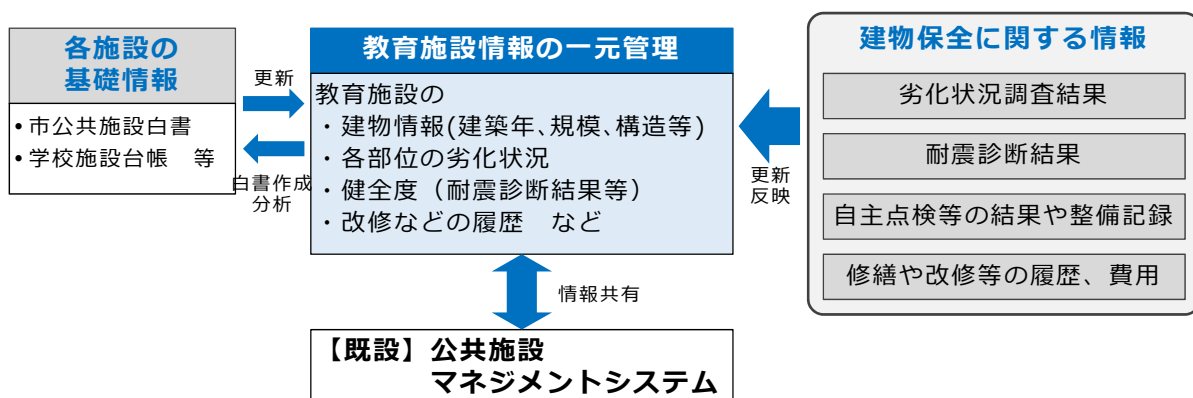


図 7.1 教育施設情報の一元管理のイメージ

7.2 計画策定後の推進体制等

関係部局との連携による計画の推進

教育施設の老朽化は今後も進行し、部位・設備の劣化も年々変化していくなか、児童・生徒数の変化や教育施設を取り巻く状況の変化に伴い、教育施設に求められる機能や水準も変わってきます。

こうした変化を的確にとらえ、効率的かつ効果的に施設整備を推進していくためには、教育委員会事務局や企画・財政担当部局との密な協議・連携が必要であることから、本計画策定にあたり組織した庁内検討会議及びワーキンググループを活用し、関係部署間で連携を図りながら取組を進めます。

7.3 フォローアップ

PDCAサイクルに基づく維持管理の推進

本計画の推進にあたっては、進捗に応じて、その内容を把握・評価し、実施内容や計画の達成状況に基づく適切な改善を行うことが求められます。そのため、PDCAサイクルの考えに基づく事業推進に取り組みます。

特に計画の更新にあたっては、パフォーマンス評価を行い、保全優先度や実行計画、適正規模・適正配置の見直しを行うこととします。

【計画全体のPDCA】

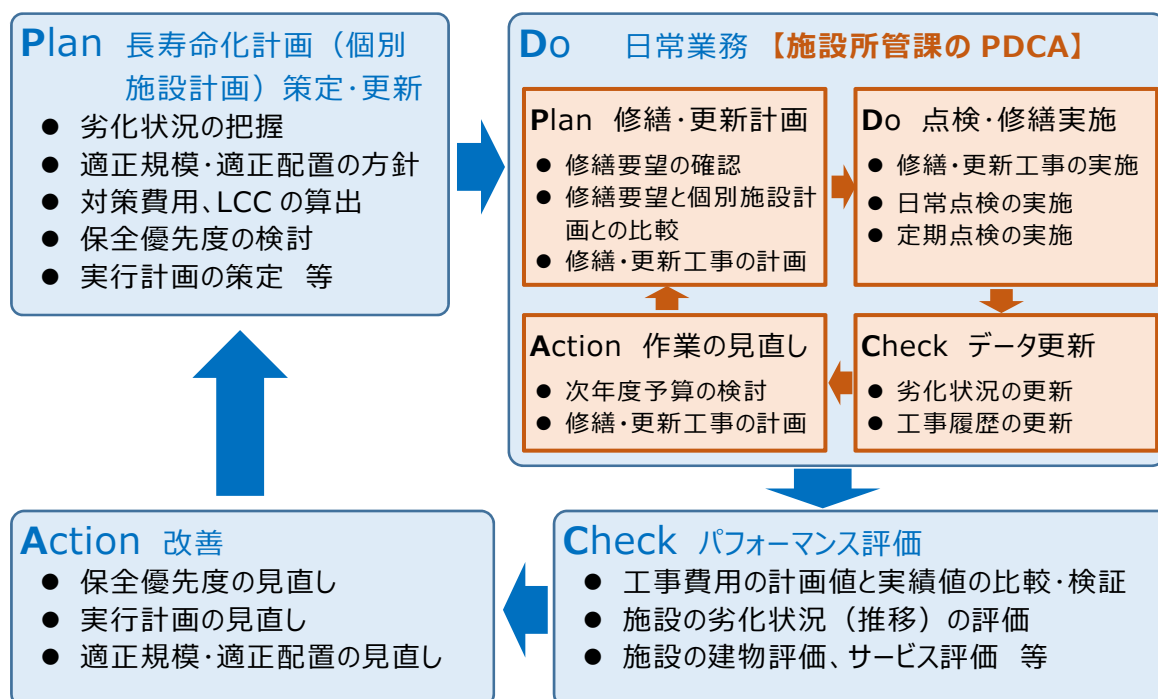


図 7.2 長寿命化計画のPDCAサイクルの概念図